

# 日本キャリア教育学会 **第45回研究大会**

The 45th Conference of Japanese Society for the Study of Career Education

## 大会プログラム



2023年10月28日・(土) 29日(日)

国立大学法人 愛知教育大学 (一部オンライン開催)

## 目次

1	研究大会日程	1
2	参加要領	2
3	大会実行委員会企画シンポジウム	7
4	会員企画シンポジウム	10
5	個人研究発表(口頭発表)	23

日本キャリア教育学会第45回研究大会

主催：日本キャリア教育学会

後援：愛知県教育委員会

名古屋市教育委員会

国立大学法人 愛知教育大学

大会実行委員会：

委員長：高綱 睦美（愛知教育大学）

事務局長：石嶺 ちづる（愛知教育大学）

実行委員(五十音順)：

浦上 昌則（南山大学）

鬼頭 裕介（愛知教育大学）

中條 敦仁（皇學館大学）

船津 静代（名古屋大学）

# 1 研究大会 日程

1 日目：2023年10月28日(土)

午前中	キャリア・カウンセラー研修講座（別途申込者のみ）
12:00～	大会受付開始
12:30～13:30	理事会
13:30～16:00 (第二共通棟 431)	<b>【大会実行委員会企画 公開シンポジウム】</b> （オンライン配信あり） <b>「キャリア教育にかかわる者が持つべきマインドとは」</b>  第一部 実践者の立場から 登壇者：安東 深雪（町田市立南第一小学校 校長） 渡邊 江李賀（NPO 法人 ICDS、 名古屋市立有松中学校キャリアナビゲーター） 鈴木 映司（静岡県立沼津東高等学校 教諭）  第二部 キャリア研究者の立場から 登壇者：藤田 晃之（筑波大学） 下村 英雄（労働政策研究・研修機構）  司 会：浦上 昌則（南山大学） 企画者：高綱 睦美（愛知教育大学）
第1部 13:30～14:20	
休憩	
第2部 14:30～16:00	
16:00～16:30 (第二共通棟 431)	研究交流会
16:30～17:00 (第二共通棟 431)	情報委員会出版記念イベント
17:00～18:00 (第二共通棟 431)	定期総会(オンライン配信あり)

2 日目：2023年10月29日(日)

9:00～10:30 (第一共通棟)	会員企画シンポジウム
10:40～12:10 (第一共通教育棟)	個人研究発表 1
12:10～13:10 (第一共通教育棟)	昼食（各種委員会）*お弁当の注文は事前予約でのみ受け付けます
13:10～15:40（予定） (第一共通教育棟)	個人研究発表 2

## 2 参加要領

### ■研究大会参加費

2023年10月18日（水）までに[第45回研究大会サイト](#)から参加申込フォームにご記入の上、参加費用をお振り込みください。振込が確認できましたら、参加予約手続き完了です。当日参加はできません。

参加費 一般会員 6,000円

学生会員 3,500円

非学会員 6,000円

■連絡先：お問い合わせはメールにてお願いいたします。

□所在地 〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学 教育人文棟 633(石嶺ちづる宛)

□E-mail [jssce45th@gmail.com](mailto:jssce45th@gmail.com)

### 3 大会実行委員会企画公開シンポジウム

(大会 1 日目 13 : 30 ~ 16 : 00)

## キャリア教育に関わるものが持つべきマインドとは

第一部 登壇者: 安東 深雪 (町田市立南第一小学校 校長)

渡邊 江李賀 (NPO 法人 ICDS、

名古屋市立有松中学校キャリアナビゲーター)

鈴木 映司 (静岡県立沼津東高等学校 教諭)

第二部 登壇者: 藤田 晃之 (筑波大学)

下村 英雄 (労働政策研究・研修機構)

司 会: 浦上 昌則 (南山大学)

企画者: 高綱 睦美 (愛知教育大学)

### 企画趣旨

「キャリア教育」が学校教育の中に位置付けられてから 20 年を超え、社会の中で広く使われるようになってきました。しかし、広く知られるようになった一方で、キャリア教育に関わる方の立場やそれまでの経験・背景により、その言葉の捉え方が少しずつ異なっているように感じます。一義的にキャリア教育をとらえなければならぬわけではありませんが、特に学校教育において「キャリア教育」に取り組もうとする際に、その違いに気づかないまま複数の関係者がキャリア教育を実践することによって、目指す方向性がぶれてしまったり、混乱を招いてしまったりすることもあるのではないのでしょうか。またキャリア教育を進める上で、さまざまな立場の方が関わり連携をとりながら活動を進めていくことは重要ですが、「キャリア教育」をどのように捉え関わろうとされているのかを互いに知ることなく取り組みを進めることには不安を感じます。今回、キャリア教育に関わる方々の「キャリア教育」の捉え方、関わり方を規定している思い、願いのようなものをマインドとよび、これを取り上げたいと考えました。

キャリア教育の研究報告、実践報告からは、そこで何が行われたのかはわかります。しかし、その研究や実践が企画、実施された背景や過程、すなわちそれに関わった方々のマインドまでを読み取ることは難しいでしょう。しかし、そういったマインドの理解を抜きにして、実践を評し、議論し、発展させていくこともまた難しいといえます。自分(達)は何を大切にしているのかということやキャリア教育をすすめるのかということや伝え合い、対話を行うことでより効果的なキャリア教育が行われるのではないのでしょうか。

日々の実践の中ではなかなかそのような時間を取ることも難しい現状かもしれませんが、全国のキャリア教育に関心のあるみなさまが参加される本大会の場でこそ、このテーマについて話すことができたらと考えました。

第一部では実践者のみなさまからお話をいただき、第二部ではそれを踏まえて国内外のキャリア研究に精通されている本学会の前会長、現会長のお二人の先生からのご提案も踏まえてキャリア教育に関わるものが持つべきマインドについて皆様と共にお話できたらと思います。

本学会は小・中・高等学校の先生や大学職員、大学教員、企業関係者など、会員の所属先が多岐にわたっていることも特徴です。参加者のみなさまとともに、キャリア教育に関わる上で何を大切にしていけることが必要なのか考える時間にできれば幸いです。

# タイムテーブル

## 第一部 登壇者の先生の実践から

安東深雪先生からの実践報告

渡邊江李賀様からの実践報告

鈴木映司先生からの実践報告

藤田晃之先生・下村英雄先生から登壇者への質疑応答

～休憩～ フロア・オンライン参加の皆様からの質問受付

## 第二部 キャリア研究者から

藤田晃之 先生

下村英雄 先生

全体討論

## ■発表内容 概略

### 安東深雪 先生：小学校の管理職の立場から

町田市キャリア教育研究推進校として、全ての教育活動でキャリア教育に取り組んでいる。「小学校におけるキャリア教育って?」と、どのような取組をしていけばよいのか目標が定まらず悩むばかりの教職員。そうした中、教師も児童も合言葉は「なりたい自分」と定め、「学校生活のすべてが『なりたい自分』に近づくチャンス」というマインドを全教職員で共有することで、どこの小学校でも、どの教員でもキャリア教育に取り組むことができる実践を目指してきた。

### 渡邊江李賀 様：外部専門家として中学校に入る立場から

名古屋市の市立中学校では、キャリア教育の更なる推進、児童生徒のキャリアプランニングの応援をミッションとし、常勤のキャリアコンサルタントが一部配置されている。

教職員とは異なる専門職という立場・視点から、ポストモダンのキャリア理論を踏まえ、「生徒たちがVUCA時代を自分らしく生き抜くために何を学び、経験するかを常に考えながら実行し、探究し続ける」というマインドを共有しながら実践を重ねてきた。

### 鈴木映司 先生：高等学校教員としての立場から

学年主任として探究「揺籃」を推進。アカデミックスキルの向上を図り多様性の尊重と平等に立脚する「自由の相互承認」の感度の向上を目指した。「何もないと思えば何もない、何かあると思えば何かある」というマインドで、自己の物語を紡ぎ出す。「自治」の精神に則り教師は成長のための環境を提供する。自分の強みを意識し、より良い自分、より良い未来をつくる手助けをした。多角的に成果を測定しながら日々実践を重ねてきた。

## 藤田晃之 先生

「キャリア教育研究に関わる中で日頃大切にしていること」というお題をいただき、真っ先に浮かんだのは「“しんどさ”への感受性」です。具体的な背景や理由は多様であれ、社会的に不利な立場にあたり、社会的な排斥の対象となっていたりする人たちが抱えるしんどさの多くは、本人が自覚しているか否かを問わず、将来への不安感や絶望感と不可分であると考えます。キャリア教育にかかわる研究を通して、ほんの少しでもそういったしんどさの軽減や解消のための方途を見出すことに寄与できたらいいなあと常に思います。

同時に、英語ではそのような人たちを「disadvantaged」「excluded」などと受動態の動名詞を使って表すことにも意識を向けたいと思っています。しんどさの根源は、その人たちの資質・能力や行為あることよりも、歴史的経緯や社会構造などがある特定の人たちを不利な立場に追いやり排斥していることにあることのほうが圧倒的に多いと捉えています。そうであるとするなら、私たちの手でしんどさの根源自体を裁ち切り、解消させることも不可能ではないはずです。そういったことに繋がる研究をしたいと思います。

さらに同時に、そういったしんどさの解消を目指そうとする研究が、実は、驕り高ぶったお節介あるいは越権行為にすらなり得ることを常に自覚したいとも考えます。自らの将来を展望しキャリアを形成していくことは、本来、いかなる介入や制約も拒否できる私的な領域に属します。自らの研究がそういった極めてセンシティブな事柄を扱っていることを自省し、無自覚で不当な介入を許容する研究にならないよう自戒できる視野と力量を得たいと願いながら研究に当たっています。

## 下村英雄 先生

キャリア教育に関わる者が持つべきマインドを考えるにあたって、なぜ私がこの領域に関わることになったのか、過去を振り返ってみた。学生時代、私の本来の関心は純粋に学術的なものと抽象的なテーマだったと思う。しかし、それは選ばず、職業選択、就職活動、進路指導を専攻することとなった。

その理由は今となってはよく分かる。それは私が東北の田舎の出身であることと深く関わる。今は違うかもしれないが、昔、田舎の人は、食っていくこと、金を稼ぐこと、生計を立てることを何よりも重視した。社会正義のキャリア研究者 Blustein が示したように、生活環境や経済状況が厳しい人々に、学校で悠長に抽象的な学問をするという高踏的・貴族的な考え方はない。私もそれを内面化していた。だから、自分が選ぶうる範囲で、少しでも人の暮らしに役立つ学問、人の生活を豊かにし、成功や幸せをもたらす、より現実的・実地的な研究に傾いていった。

こうした経緯から、キャリア教育に関わる際に私が大切にしたいマインドも明らかである。子ども達の将来の暮らしに役立つ営み、子ども達の将来の生活を少しでも豊かにし、その子なりの成功や幸せが得られるような地に足の着いた取り組みを重視する。私の立場では、それは、子ども達が進路選択や就職活動を上首尾に行い、その後、大人になってからの職業生活の荒波を自分で乗り超えて行くために必要な力を身に付けさせるということでもある。

近年は、欧州のキャリア教育論が言う社会正義論やグリーンガイダンスなどを紹介してきた。結局、学術的・抽象的な研究ではないかという批判は甘受せざるを得ない。一方で、学校で行われるキャリア教育の実践の中には、時にあまりに内向きで高度すぎ、これをどう若者の具体的な進路に着地させるのか頭を抱えてしまう時がある。学校卒業後、長く続くキャリアを見据えた、今、求められるキャリア教育のマインドを改めて考えたい。



## 4 会員企画シンポジウム（大会2日目 9:00~10:30）

### シンポ1

#### 高校のキャリア教育を外部の力でアップグレードできるのか？

ーキャリアナビゲーター（名古屋市キャリアサポート事業）・  
キャリア教育コーディネーターに着目してー

話題提供者：酒井 淳平（立命館宇治中学校・高等学校）

櫛谷 彩乃（認定NPO法人アスクネット）

長谷川 涼（名古屋市立高等学校キャリアナビゲーター）

司 会：上井 靖（A-sessions 代表）

企 画 者：長谷川 涼（名古屋市立高等学校キャリアナビゲーター）

#### 企画趣旨

社会に開かれた教育課程の中で、教員以外の大人が学校の教育活動に参画する事例が急激に増加している。例えば、部活動の外部指導員、探究学習での地域人材や地元企業との連携等が進んでいる。名古屋市ではキャリアサポート事業として国家資格キャリアコンサルタントを学校に常駐させる取り組みを始めた。重要な取り組みであり教育の高度化につながる可能性があるが、一方で学校に外部の人が入る難しさもある。名古屋市の事例から、外部の力でキャリア教育をアップグレードできる可能性を探りたい。

## シンポ2

# バルネラブルな生徒・中途退学者等に対する 学校から社会への移行支援に関する国際比較

## －第1次報告－

- 話題提供者：○立石慎治 (筑波大学 教学マネジメント室)  
川口 純 (筑波大学 人間系)  
才鷹武也 (筑波大学 大学院人間総合科学学術院)  
○峯啓太郎 (筑波大学 大学院人間総合科学学術院)  
三村隆男 (早稲田大学 教育・総合科学学術院)  
宮古紀宏 (国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター)  
田中光晴 (文部科学省 総合教育政策局)  
○石嶺ちづる (愛知教育大学 教育科学系)  
芦沢柚香 (筑波大学 大学院人間総合科学学術院/日本学術振興会特別研究員)  
○岡部 敦 (清泉女学院大学 人間学部)  
安里ゆかし (筑波大学 大学院人間総合科学学術院)  
○白幡真紀 (仙台大学 体育学部)  
ライアン優子 (静岡大学 国際連携推進機構)  
○京免徹雄 (筑波大学 人間系)  
高橋洋行 (立正大学 社会福祉学部)  
○藤田駿介 (筑波大学 大学院人間総合科学学術院/日本学術振興会特別研究員)  
坂野慎二 (玉川大学 教育学部)  
○藤田晃之 (筑波大学 人間系)  
吉川実希 (筑波大学 大学院人間総合科学学術院/日本学術振興会特別研究員)  
司 会： 藤田晃之 (筑波大学 人間系)  
企 画 者： 藤田晃之 (筑波大学 人間系)

### 企画趣旨

本シンポジウムでは、科学研究費補助金・基盤研究（A）を受けて進行中の国際比較研究の第一次報告を行う（課題番号 20H00093）。本研究は、日・韓・米・加・英・仏・独・丁抹の8カ国を対象としつつ、学校適応上の困難を抱え、いじめや排斥の対象となりやすい生徒及び中退者を対象とした、学校から社会への移行支援の在り方を探るための国際比較研究を実施するものである。特に、①外国にルーツをもつなどにより公用語指導等の必要な者、②性的少数者、③歴史的・社会的背景として出自・居住地・人種・民族等を理由にいじめや排斥等の対象となる傾向が強い者を中核対象としている。今回は、2022年度に実施した調査を中心にその成果を報告し、ディスカッションを行う。

## 5 個人研究発表（口頭発表）（大会2日目 10:40~15:40）

※会場は会場案内でご確認ください。

### 第1部会（10:40~12:10）第一共通棟 211

座長：下村 英雄（労働政策研究・研修機構）

1-1	10:40~11:05	価値の明確化の手続きを含んだ大学生の就職活動継続支援のあり方	軽部 雄輝	帝京平成大学	P 30
1-2	11:10~11:35	キャリアの意思決定における「望ましさ」の批判的検討—自律を尊重するパターンリズムの視点から—	安里 ゆかし	筑波大学大学院	P 32
1-3	11:40~12:10	学校中退者等のライフコースと就職支援の構造的課題	伊藤 勇氣	東京大学大学院	P 34

### 第2部会（10:40~12:10）第一共通棟 210

座長：岡部 敦（清泉女学院大学）

2-1	10:40~11:05	日本型雇用制度の特質からみたキャリア教育の課題	才鷹 武也	筑波大学大学院	P 36
2-2	11:10~11:35	生徒指導・キャリア教育に関する学校アカウントビリティ導入の検討	宮古 紀宏 三村 隆男	国立教育政策研究所 早稲田大学	P 38
2-3	11:40~12:10	戦後日本における選択的な就学機会の変容とジェンダー	村山 詩帆	佐賀大学	P 40

### 第3部会（10:40~12:10）第一共通棟 206

座長：立石慎治（筑波大学）

3-1	10:40~11:05	大学1年生の初期キャリア意識に対するコロナ禍の影響	国井 昭範	明海大学	P 42
3-2	11:10~11:35	ロールモデルの有無が職業観やレジリエンスに与える影響	山田 智之	上越教育大学	P 44
3-3	11:40~12:10	看護学生のキャリア形成に必要な学習動機づけ—職業的アイデンティティとキャリアレディネスに着目して—	堀井 順平	広島文化学園大学	P 46

## 第4部会（10:40~12:10）第一共通棟 205

座長：田澤 実（法政大学）

4-1	10:40~11:05	キャリア教育授業と距離の関係性	伊藤 崇洋	静岡大学	P 48
4-2	11:10~11:35	キャリア形成を促す卒業生の人材を活用した異年齢交流活動	村瀬 悟	みよし市立三好中学校	P 50
4-3	11:40~12:10	"オンライン空間を用いたキャリア教育実践の検討—「はたらく部」での取組をもとに"	古屋 星斗 山本 将裕	リクルートワークス研究所 株式会社 NTT ドコモ ドコモアカデミー学長/ はたらく部代表	P 52

## 第5部会（10:40~12:10）第一共通棟 204

座長：安達 智子（早稲田大学）

5-1	10:40~11:05	進路選択における援助要請スタイルと自己効力、進路探索との関連	成田 絵吏	岐阜聖徳学園大学	P 54
5-2	11:10~11:35	キャリア相談に来た学生の意識・行動を継続させるフォローアップの必要性和課題	渡部 昌平	秋田県立大学	P 56
5-3	11:40~12:10	インターンシップ学修に効果的な教材の開発と評価 - 前年度の課題を活用したカード型グループワーク -	前田 吉広 向井勝也	福山大学 福山大学	P 58

## 第6部会（10:40～12:10）第一共通棟 208

座長：京免 徹雄（筑波大学）

6-1	10:40～11:05	困ったときに、支援を求めることができる児童生徒の育成	後藤 正樹	岐阜県立 恵那特別支援学校	P 60
6-2	11:10～11:35	特別支援学校高等部の進路指導主事の職務についての一考察－高等学校の進路指導主事との相違を中心とした文献レビューを通して－	青野 也寸志	放送大学大学院	P 62
6-3	11:40～12:10	知的障害特別支援学校高等部の普通科と職業学科におけるキャリア支援の現在－作業学習と職業に関する専門教科及び企業実習に関するインタビュー調査から－	中島 弘和	元国立 都城工業高等専門学校	P 64

## 第7部会（10:40～12:10）第一共通棟 209

座長：中條 敦仁（皇學館大学）

7-1	10:40～11:05	高校生の主体的なキャリア発達を促すための個に応じた支援の検討	三苫 由美子 西山 久子	福岡教育大学 教職大学院 福岡教育大学	P 66
7-2	11:10～11:35	学習者のエージェンシー評価尺度の検討	小牧 瞳	千葉大学	P 68
7-3	11:40～12:10	高校生のキャリア形成におけるエージェンシーの関連について	小見 まいこ	筑波大学大学院	P 70

## 第8部会（13:10～15:40）第一共通棟 211

座長：阿部 夢（愛知淑徳大学）

座長：新目真紀（職業能力開発総合大学校）

8-1	13:10~13:35	ジェネリックスキル伸長の 規定要因の検討 —PROG 受検者への聞き取 り調査の分析—	小山 知子 酒井 陽年 島崎 雅史	川村学園女子大学 株式会社リアセック 株式会社リアセック	P 72
8-2	13:40~14:05	汎用的能力の学修に資する キャリア教育 ～リフレク ション分析での検証～	彌島 康朗	敬愛大学	P 74
8-3	14:10~14:35	キャリア教育科目の体系化 を目指して：課題解決型 PBL の講義科目と演習科目 の連携	長田 尚子 中川 洋子	立命館大学 立命館大学	P 76
8-4	14:40~15:05	Z 世代のキャリア意識を醸 成する教育プログラムの開 発とその効果	中井咲貴子	京都精華大学	P 78
8-5	15:10~15:40	大学 2 年生向けキャリアデ ザイン科目における自己調 整力育成の効果検証	新目 真紀	職業能力開発 総合大学校	P 80

## 第9部会（13:10～15:40）第一共通棟 210

座長：白木 みどり（金沢工業大学）

座長：京免 徹雄（筑波大学）

9-1	13:10~13:35	学校におけるキャリア・カ ウンセリングの理論化の試 みⅡ—価値付けたエピソード の「つなぎ方」に着目して —	荒川 文雄 京免 徹雄	棚倉町教育委員会 筑波大学	P 82
9-2	13:40~14:05	小学校キャリア教育における 「対話的自己」研究	山田 晋作	帝京大学大学院 /帝京大学小学校	P 84
9-3	14:10~14:35	自律的な「生き方・在り方」 学修の可能性Ⅳ—『マイチ ェックシート』の経年活用 —	柳瀬 啓史	高知市立介良小学校	P 86
9-4	14:40~15:05	地域社会・保護者との連携・ 協働による小学校における キャリア教育の展開と実践 例—子ども達の自己実現と 幸せを願って—	島津 将人	I.S.K 札幌インターナ ショナルスクール	P 88
9-5	15:10~15:40	これからの時代に対応した 小学校教員に求められる資 質能力に関する—考察	横江 信一	石巻専修大学	P 90

## 第 10 部会 English Session (13:10~15:40) 第一共通 206

座長：家島 明彦 (大阪大学)

座長：ライアン 優子 (静岡大学)

10-1	13:10~13:35	Educational and career development support for international students using online lecture	山口 博司 市原 隆 外山 宏	藤田医科大学病院 藤田医科大学病院 藤田医科大学病院	P 92
10-2	13:40~14:05	Thriving in an Uncertain Future: Insights from Lifelong Career Development Workshops for University Students	白石 寛子	立命館アジア太平洋大学	P 94
10-3	14:10~14:35	Work-Family Conflict among Japanese Working Parents	安達 智子	早稲田大学	P 96
10-4	14:40~15:05	Career Education and Guidance for Disadvantaged Pupils: Insights from Secondary Schools in England and Implications for Japan	ライアン 優子	静岡大学	P 98
10-5	15:10~15:40	Proposed Indicators for Evaluating Collective Efforts in Career Education	三村 隆男 宮古 紀宏	早稲田大学 国立教育政策研究所	P 100

## 第 11 部会 (13:10~15:05) 第一共通棟 205

座長：矢崎 裕美子 (日本福祉大学)

座長：田澤 実 (法政大学)

11-1	13:10~13:35	社会科学領域科目におけるライフキャリア教育の実践～「社会正義志向」および「ケアの倫理」における男女差の検討～	高丸 理香	お茶の水女子大学	P 102
11-2	13:40~14:05	親の教育的態度によるキャリア形成の変容に関する研究—人文社会科学系学生を対象とした社会人パネル調査データをもとに—	小澤 昌之	東京学芸大学	P 104
11-3	14:10~14:35	自県進学率の高さは何を示しているのか—大学収容率、大学進学率、自エリア進学率との関連に着目して—	田澤 実	法政大学	P 106
11-4	14:40~15:05	大学卒業後の進路に関する情報の公表が大学選びに及ぼす影響の検討	吉田 望 森 利枝	琉球大学 大学改革支援・学位授与機構	P 108

## 第 12 部会 (13:10~15:05) 第一共通棟 204

座長：山田 智之 (上越教育大学)

座長：岡部 敦 (清泉女学院大学)

12-1	13:10~13:35	居場所としての子ども食堂	佐藤 美輪 小形 美樹	仙台青葉学院短期大学 仙台白百合女子大学	P 110
12-2	13:40~14:05	ヤングケアラーに対するキャリア形成支援の理論的研究—E.F.キテイの社会正義論に着目して—	出原 幹大	みずほリサーチ&テクノロジー株式会社	P 112
12-3	14:10~14:35	バルネラブルな若者の個別のニーズに特化した学校における移行支援—カナダ・アルバータ州における 10代の母のための高校に着目して—	岡部 敦 安里 ゆかし	清泉女学院大学 筑波大学大学院	P 114
12-4	14:40~15:05	デンマークにおける性的少数者の生徒に対する移行支援—民間団体の支援体制と学校との連携に着目して—	藤田 晃之 吉川 実希	筑波大学人間系 筑波大学大学院	P 116

## 第 13 部会 (13:10~15:05) 第一共通棟 208

座長：浦上 昌則 (南山大学)

座長：胡田 裕教 (滋賀県立大学)

13-1	13:10~13:35	米国オハイオ州における中等教育段階での移行支援施策の特質—キャリア・パスウェイの活用とその選択へ向けた支援実践に着目して—	芦沢 柚香	筑波大学大学院	P 118
13-2	13:40~14:05	キャリア・ポートフォリオの構成要素の検討—認知的スキル・社会情動的スキルの視点を基に—	清水 克博 胡田 裕教 角田 寛明 岩城 祥子	名古屋学芸大学 滋賀県立大学 東北学院大学 呉市教育委員会	P 120
13-3	14:10~14:35	ドイツ連邦におけるキャリア教育に際したポートフォリオの特質—中等教育段階全体を包含するギムナジウムでの運用に着目して—	藤田 駿介	筑波大学大学院	P 122
13-4	14:40~15:05	職業体験施設での経験がキャリアに関する自己認識に与える長期的な影響	立石 慎治 宮本 美佐 岩下 好美 高田 織衣 酒井 綾菜 中井麻奈未	筑波大学 KCJ GROUP 株式会社 KCJ GROUP 株式会社 KCJ GROUP 株式会社 KCJ GROUP 株式会社 東京大学	P124



## 第 14 部会 (13:10~15:05) 第一共通棟 209

座長：本田 周二(大妻女子大学)

座長：三保 紀裕 (京都先端科学大学)

14-1	13:10~13:35	G I G Aスクール構築の推進と学習方法の変化と定着度について—就職面接における支援方法の変化による柔軟な対応—	田原 数哲 松本 禄生 椎野 有香 中濱 愛海 服部 文彦	豊橋創造大学短期大学部 愛知県立豊田東高等学校 全国高等学校秘書教育研究会 全国高等学校秘書教育研究会 南山大学	P 126
14-2	13:40~14:05	韓国における学業中断の問題を抱えた児童生徒に対する移行支援—ソウル特別市の支援体制に焦点をあてて—	峯 啓太郎	筑波大学大学院	P 128
14-3	14:10~14:35	中学生のコミュニケーションスキルが進路決定スキルに及ぼす効果の検討—VRT カードを用いた進路学習より—	南 雅則	びわこ学院大学	P 130
14-4	14:40~15:05	青年期に社会情動的スキルを育成する理論と方法—高等学校における学校設定科目を実践的背景として—	杉山 比呂之	専修大学附属高等学校	P 132